JAPANFOUNDATION

報道関係者各位
PRESS RELEASE 2014年3月12日

2013年度　国際交流基金地球市民賞　授賞決定

過去最高数の推薦・応募の中から、
新たな国際文化交流のあり方を提案する3団体が受賞

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、国際文化交流を通じて、日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、相互の知恵やアイディア、情報を交換し、ともに考える団体に「国際交流基金地球市民賞」（以下、地球市民賞）を授賞しています。2013年度は、過去最高の136件の推薦・応募があり、選考の結果、以下を受賞団体と決定いたしました。

＜2013年度受賞団体＞　*以下50音順、敬称略。各団体の詳細は後頁ご参照

- **特定非営利活動法人　多言語社会リソースかながわ（神奈川県横浜市、理事長：松野　勝民）**
- **特定非営利活動法人　BankART1929（ばんかーといちきゅーにーきゅー）（神奈川県横浜市、代表：池田　修）**
- **特定非営利活動法人　雪合戦インターナショナル（北海道有珠郡壮瞥町（うすぐんそうべつちょう）、理事長：松本　勉）**

地球市民賞は、1985年度に創設され、今年度で29回目を迎えます。市民交流、文化分野に特化した数少ない賞として、これまでに88の団体・個人を顕彰してきました。この間、市民活動の総数も増え、インターネットやソーシャルメディアの普及などで、国際文化交流のあり方が多様化し、ソーシャルベンチャーなど、よりグローバルで、地域に限定されない新しいモデルケースの市民活動が見受けられるようになってきています。この動向を受けて、国際交流基金では本年度から応募要件を改定し、自薦や公益性の高い国際文化交流活動を実施している社会的企業の応募も受け付け、「将来性」や「社会に対する影響力」を選考のポイントに加えた新しい応募ガイドラインを策定しました。

選考にあたっては、観光立国の推進や東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など、より一層の訪日外国人の増加が見込まれる中、社会のさまざまな局面で多言語対応の必要性や日本の文化や芸術への関心が高まっている背景も踏まえて、厳正なる選考が行われた結果、上記3団体を受賞団体と決定いたしました。

授賞式は、3月28日（金）に国際交流金本部（東京都新宿区）で開催され、賞状と副賞200万円が受賞団体に贈られる予定です。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ：　国際交流基金　情報センター（菅野、宮田）
Tel: 03-5369-6075 / E-mail: chikyushimin@jpf.go.jp
●広報用画像・取材に関するお問い合わせ：　日本パブリックリレーションズ研究所 横田、棚瀬、高野
Tel:03-5368-0911 /　FAX: 03-5269-2390 /　E-mail：japanfoundation@japan-pri.jp

【補足資料①】

＜地球市民賞について＞

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）では、1985 年に「国際交流基金地域交流振興賞」を創設して以来全国各地で地域に根ざした先導的な国際文化交流活動を行っている個人や団体を顕彰してきました。その後 2005 年に現在の「国際交流基金地球市民賞」という名称に改定し、国際文化交流活動を通じて、日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイディア、情報を交換してともに考える団体を支援しています。

＜授賞概要＞

●対象活動：

① 文化・芸術による地域づくりの推進：日本と海外をつなぐ文化・芸術の交流を通じて、豊かで活気のある地域やコミュニティをつくる活動など

② 多様な文化の共生の推進：外国人の多様な文化（言語教育を含む）を理解、尊重し、ともに豊かで活気のある地域やコミュニティを築いていこうとする活動など

③ 市民連携・国際相互理解の推進：共通の関心や問題意識を通じ、日本と海外の市民同士の連携や相互理解を進める活動など

●対象団体：

公益性の高い国際文化交流活動を行っている日本国内の団体

●選考のポイント：

① 先進性：国際文化交流活動の一つのモデルとして、他の団体の参考となる活動であること

② 独自性：独自のアイディアを活かした活動であること

③ 継続性：少なくとも 3 年以上、着実な活動をしていきていること

④ 将来性：今後も着実で活発な活動が継続されることが見込まれること

⑤ 社会に対する影響力：社会的な広がりや浸透力のある活動であること

●表彰：

受賞団体には、正賞（賞状）ならびに副賞（200 万円）を贈呈

＜選考理由～総評＞

今年度の受賞団体は、「訪日外国人の急増や東京オリンピック・パラリンピックの開催決定などにより、社会のさまざまな局面で多言語対応の必要性が高まっていること」、「ソチ冬季オリンピックにおける選手の活躍により、冬の競技に盛り上がりを見せるなど、スポーツを通じて文化交流を長年継続してきていること」、「日本国内で活動している団体が専門とする分野において、海外とのつながりを大切に活動していること」が選考理由となった。

＜国際交流基金（ジャパンファウンデーション）について＞

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は世界の全地域に日本の文化を発信する日本で唯一の専門機関です。 世界の人々と日本の人々の間でお互いの理解を深めるためさまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。詳しくは http://www.jpf.go.jp/j/about/outline/about_01.html をご覧ください。

〒160-0004　東京都新宿区四谷 4-4-1
www.jpf.go.jp

＜2013 年度　地球市民賞受賞団体について＞　*以下 50 音順

■受賞団体 1：特定非営利活動法人　多言語社会リソースかながわ

～専門性の高い医療通訳者等の派遣で、多言語対応の課題に取り組む～

【所在地】：神奈川県横浜市
【代表者】：理事長　松野　勝民（まつの　かつみ）
（済生会神奈川県病院　医療福祉相談室　室長
（ソーシャルワーカー））
【設立年】：2002 年 4 月
【Website】：http://mickanagawa.web.fc2.com/
【SNS】：https://www.facebook.com/Mickanagawa

＜主な事業内容＞
- 医療通訳の養成事業、医療通訳の派遣事業、一般通訳派遣事業、外国籍住民の健康相談や生活に関する相談会実施、医療通訳啓発事業
- 神奈川県内を中心に医療通訳者をコーディネート・派遣、全国に医療通訳研修講師を派遣、実施

＜活動概要＞
外国籍住民支援活動の中でも、多言語による医療通訳者を神奈川県下の 60 の医療機関と提携して派遣、また、そのコーディネートを行っている。派遣数は年間 4,000 件、派遣要請は一日平均約 20 件。現在、通訳者数は 162 名おり、11 言語（中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国朝鮮語、タガログ語、英語、タイ語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、ロシア語）で対応している。医療通訳者の約 4 割は外国出身であり、日本語を学び、また母語も活かしバイリンガルのボランティアとして自らが生活する地域社会へ貢献している。同法人は、全国に先駆けて、多言語による医療通訳派遣のコーディネートや組織化に取り組み、全国の地方自治体や国際交流協会からの医療通訳研修等への講師派遣依頼も数多く受け、先進的事例となっている。

＜授賞理由＞
訪日観光客の急増、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定により、社会のさまざまな局面で多言語対応による受入環境を充実させる必要性が高まっている。特に、医療や介護など専門性の高い分野での日本語教育の充実が求められている。活動に関わっている医療通訳者の多くは海外にルーツを持ち、学んだ日本語を活かしてボランティア活動に携わっており、通訳により地域社会への貢献と多文化共生の言葉を通じて在住外国人の暮らしを支えている。今後、日本全体が取り組むべき課題のひとつを提示していることが評価された。

＜受賞団体からのコメント＞
“2002 年以来「ことばで支える いのちとくらし」をモットーに通訳活動を通じ、日本語を母語としない外国籍住民の人権を守ってきました。この姿勢を評価していただき、大変うれしく存じます。これからは在住外国人の高齢化に伴い、在宅医療や介護の分野等さらに充実させるとともに、全国の方々と協力し、医療通訳の普及、定着に努力してまいります。”

■受賞団体2：特定非営利活動法人　BankART1929（ばんかーといちきゅーにーきゅー）

～横浜で、アートを通じた国際文化交流。海外との連携や、ハブとしての役割も～

【所在地】：神奈川県横浜市
【代表者】：代表　池田　修（いけだ　おさむ）
【設立年】：2004年
【Website】：http://www.bankart1929.com/
【BLOG】：http://bankart1929.seesaa.net/

＜事業内容＞
主催企画事業、コーディネート業務、パブ及びカフェ運営、ショップ及びコンテンツ（出版）事業、スクール事業、AIR事業、国内外のネットワーク構築他。主な運営施設はBankART Studio NYK、ハンマーヘッドスタジオ新・港区（以上横浜市）、BankART妻有（つまり）

＜概要＞
横浜市が推進する文化芸術による中心市街地活性化政策のプロジェクトとして、歴史的建造物を改修したアートセンターの運営やアートと市民をつなぐ様々なイベントや展示を行う。また国際会議や調査出版、アーティスト・イン・レジデンス事業、大野一雄フェスティバルを通して国内外のアートスペースとのハブとしての機能も担ってきている。また江戸時代に韓国から通信使が派遣されていた歴史的事実を踏まえ、文化を通じた日韓市民交流事業として2009年より「続・朝鮮通信使プロジェクト」を企画・運営し、日本と韓国の両国において多彩な事業を展開している。さらに今年は横浜トリエンナーレとの特別連携予定となり、また横浜市が東アジア文化都市に選出されたため、東アジア全体への活動の広がりが期待される。

＜授賞理由＞
近年、各地に設立されているアートセンターの先駆として、海外のアートセンターやオルタナティブ・スペースとつながるセミナーやシンポジウムなどの会議の開催やネットワーク構築など積極的に展開している。横浜市の文化芸術によるまちづくりとも連動し、日本におけるアートセンターの核としてさらなる活躍が期待できることが評価された。

＜受賞団体からのコメント＞
BankART1929 “BankART1929は「創造界隈の形成」や「国内外の都市との新しいネット ワークの構築」を標榜し、またそれらに支えられながらこれまでやってきました。地球市民という称号は気恥ずかしく、私たちには分不相応な言葉に思えますが、地球外からの視座を与えてくれるわくわくする言葉です。”

■受賞団体３：特定非営利活動法人　雪合戦インターナショナル　No.1001-P.5

～雪合戦を、YUKIGASSENに。日本発祥のスポーツで、地域と世界をつなぐ～

【所在地】：北海道有珠郡壮瞥町（うすぐんそうべつちょう）

【代表者】：理事長　松本　勉（まつもと　つとむ）
（昭和新山国際雪合戦実行委員長・国際雪合戦連合会会長兼任）

【設立年】：2009年

【Website】：（雪合戦インターナショナル）
http://www.yukigassen.jp/index2.html
（国際連合）http://www.yukigassen.org/

【SNS】：（雪合戦マガジン編集部）
https://www.facebook.com/yukigassenmagazineyamada
（昭和新山国際雪合戦）https://www.facebook.com/YukigassenJp

＜主な活動内容＞

・ 雪合戦の国内外への広報普及、国際雪合戦連合の運営、昭和新山国際雪合戦の広報活動、イベントの運営支援、権利の管理、用品の斡旋販売

＜概要＞

雪合戦の競技ルールづくり、用具の開発、スポーツ競技としての大会開催のほか、海外への普及活動を行う。人口2,700人という過疎・少子高齢化の壮瞥町の町民が一体となり大会を開催することで、地域の活性化に繋がっている。さらに、海外への普及活動にも力を入れ、現在、海外の三大陸、9カ国（スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、ベルギー、ロシア、オランダ、カナダ、アメリカ、オーストラリア）で、“YUKIGASSEN”と呼ばれ愛好されている。雪合戦大会（昭和新山国際雪合戦）には、1991年には香港から初の海外チームが参戦、1995年に海外初の雪合戦大会がフィンランドで開催、2006年から3年にわたり東アジア大会を開催。更なる普及活動強化のため、NPO法人雪合戦インターナショナルを設立し、一昨年には、国際的な総括組織として活動をしていくため10カ国で構成する「国際雪合戦連合」を設立。これまでの外国人参加は、69カ国602名。自分たちの町が生み、育てたこの雪合戦を、壮瞥町で完結するのではなく、海外に伝え世界中に広げ、自分たちのYUKIGASSENを世界共通語とすること、海外の方がそれぞれ最寄りの大会で手軽に雪合戦を楽しんでもらえる環境を作ることが現在の目標。

＜授賞理由＞

日本発の町民たちが考えた新しいスポーツを世界に発信、伝播しようとしている活動は、少子高齢化に瀕している地域にやりがいといきがいをもたらし、スポーツ文化を通じ地域に活性化をもたらしている。四半世紀にわたり、さまざまな課題を乗り越え、内外に雪合戦の愛好者を増やし、海外にも雪合戦連盟を立ち上げ、国際的なスポーツとして海外へ普及活動を行っており、雪が少ない国とも交流の開始を含め、着実に日本発のスポーツを世界に広め交流していることが評価された。

＜受賞団体からのコメント＞

“壮瞥町は北海道の小さな田舎町ですが、自ら生み育てた雪合戦の普及を通じて、世界中に雪合戦仲間ができました。この受賞の喜びを彼らと共に分かち合うとともに、雪合戦を冬季オリンピック種目にするという途方もない夢に向かって、これからも力を合わせて挑戦を続けていきます。”

YUKIGASSEN
雪合戦